柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９０年度

１９９１年3月

柏原市教育委員会

はしがき

柏原市は、市域の３分の２が山地や丘陵が占める小都市です。大阪の都心から近郊にあることから住宅開発が顕著であって近年の機械力と土木工学の発達からこれまで開発の波が及ばなかった場所まで進行するようになった。

平野部の開発が減少する代わりに古墳が沢山ある丘陵地にその波が及びつつある。丘陵部の古墳には特に現状保存が難しいが、市の文化財行政としては出来る限り遺す方策を考えていきたい。

本年は、高井田横穴史跡公園化事業を実施してきました。保存した古墳の公開によって市民の皆さんに柏原市は文化財の宝庫であることと将来の文化の糧として歴史の深さと大切さを知っていただきたい。

本年度も市内各所の遺跡発掘調査を実施し、数多くの成果を得て、本書に報告するものである。関係各位の暖かいご理解とご協力を頂いたことに感謝する。

平成３年３月

柏原市教育委員会
教育長　庖刀和秀

例　　言

1、本書は、柏原市教育委員会が国庫補助事業（総額1,500,000 円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2、調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係、北野　重、安村俊史を担当者とし、平成２年４月１日に着手し、平成３年３月31日に終了した。

3、本書は、文化財保護法第57条の２に基づく届出があった243件のうち平成２年１月１日から平成２年12月31日までに着手した、土木工事に伴う事前発掘調査の概要を記載している。

4、調査の実施と整理にあたっては、下記諸氏の参加を得た。

松井隆彦	空山　茂	山田寛顕	生駒美洋子	寺川　款	津田美智子
坂口良子	小西千賀恵	児玉章子	平尾　茂	岡田嗣生	筒井隆史
北林隆広	山崎靖恵	早川恵子	佐藤　航	尾野知永子	乃一敏恵
井上岩次郎	奥野　清	谷口鉄治			

5、本書の執筆は、北野と安村が担当し、北野が編集した。

6、本書で使用した標高と方位は、特に注記のないかぎりＴ．Ｐ．、磁北である。

7、本調査に際して、写真、実測図を記録として残すと共に、カラースライドを作製した。また、出土遺物は、写真、実測図と共に当教育委員会、歴史資料館にて保管、展示を行っている。広く利用されることを願うものである。

目　　次

はしがき
例言
目次

1990年柏原市内遺跡群発掘調査一覧
1990年柏原市内遺跡群立会調査一覧

第１章　大県遺跡
　90―２次調査…… 1
第２章　大県南遺跡
　90―１次調査…… 3
第３章　平尾山古墳群
　90―４次調査…… 5
第４章　田辺遺跡
　90―５次調査…… 8
　90―６次調査……11
　90―７次調査……15
　90―10次調査……18

挿　図　目　次

図―１　大県遺跡調査地位置図
図―２　調査区位置図
図―３　トレンチ断面図
図―４　大県南遺跡調査地位置図
図―５　調査区位置図
図―６　トレンチ平面図・断面図
図―７　出土遺物
図―８　平尾山古墳群調査地位置図
図―９　奈良時代のかしわら
図―10　田辺遺跡調査地位置図
図―11　調査区位置図
図―12　トレンチ平面図
図―13　出土遺物
図―14　調査区位置図

図—15　トレンチ南半部平面図
図—16　トレンチ北半部平面図
図—17　出土遺物
図—18　トレンチ平面図・断面図
図—19　鉄滓出土地
図—20　調査区位置図
図—21　遺構平面図

図　版　目　次

図版 1	大県遺跡	トレンチ全景	出土遺物
2	大県南遺跡	遺構検出状況	遺構掘削後
3	平尾山古墳群	トレンチ（西から）	トレンチ（南から）
4	〃	第 1 トレンチ	第 2 トレンチ
5	田辺遺跡	北側トレンチ	南側トレンチ
6	〃	南側トレンチ	出土遺物
7	〃	第 1 トレンチ	焼土坑 1
8	〃	第 2 トレンチ	土坑 2
9	〃	出土遺物	出土遺物
10	〃	トレンチ（東から）	トレンチ（北から）
11	〃	遺構（北から）	遺構（南から）
12	玉手山遺跡	トレンチ（南から）	トレンチ（東から）

1990年度　　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

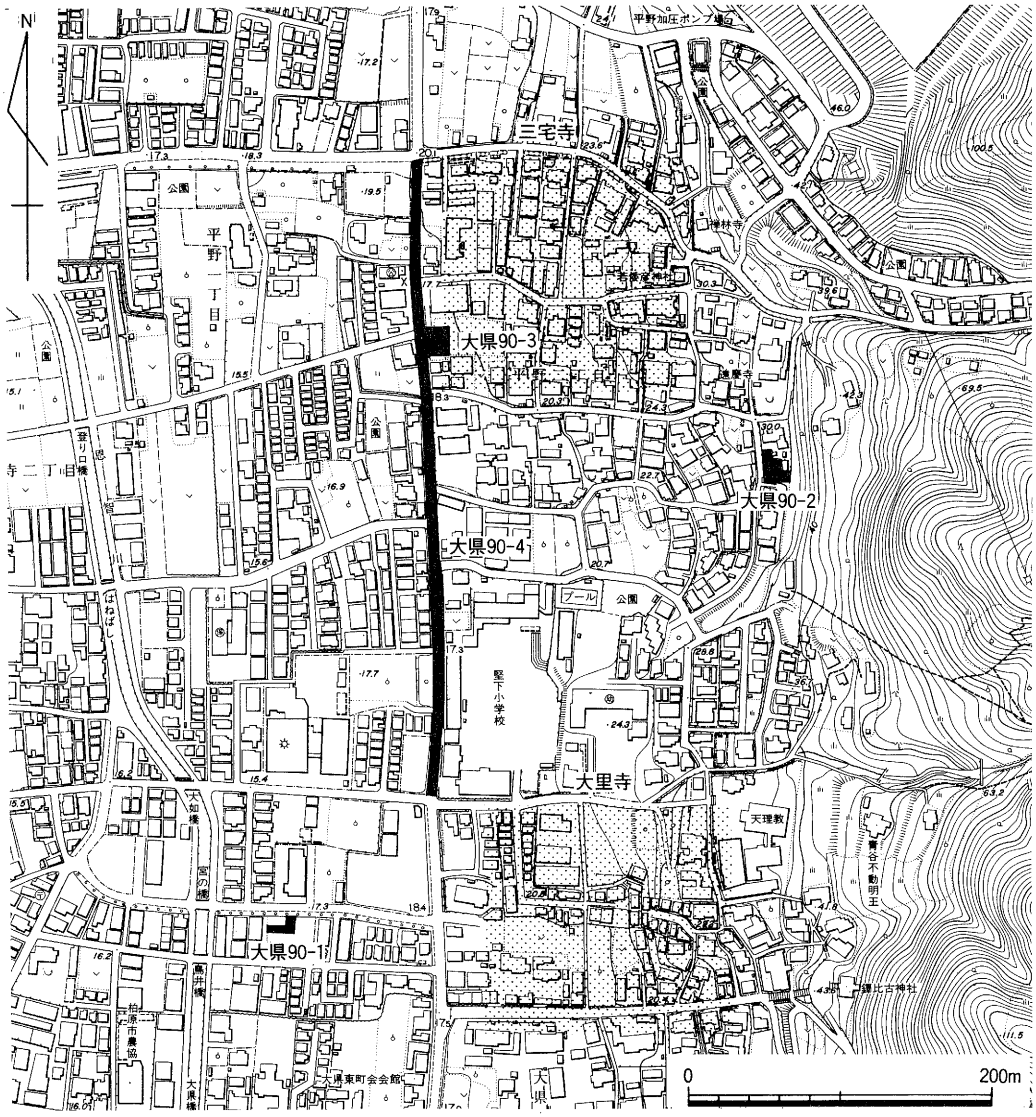
遺跡名	所在地	面積 ㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
高井田横穴群	大字高井田1591—10	1,012.281	山西敏一	教育施設	安村	1.22～2.21	幅1.5 mのトレンチ6ヶ所に設定、横穴と考えられる遺構2基、落ち込み状の遺構1ヶ所、6～7世紀の須恵器、土師器、埴輪が出土。
大県南遺跡	大県4丁目387—1	184.68	山田光男	専用住宅	北野	2.6	本書掲載
大県遺跡	平野2丁目287—3	313.5	五島晴美	専用住宅	北野	3.3 ～3.6	本書掲載
田辺遺跡	旭ヶ丘3丁目1143—8の部	95.43	松永隆	木造2階建専用住宅	北野	3.3 ～3.7	遺物少量出土
田辺遺跡	田辺1—2034—1	244.06	柿木三郎	木造2階建	北野	3.7 ～3.15	本書掲載
田辺遺跡	田辺1—986—3	90.74	寺田理明	木造2階建	北野	3.13～3.20	本書掲載
平野廃寺	平野2丁目143—6	495.05	田中幸司	鉄骨倉庫	北野	3.20	遺構なし、遺物は土師器、須恵器、縄文土器等の出土。
平尾山古墳群	太平寺729—1	41,674.67	山田正太郎	ゴルフ練習場	安村	3.20～3.22	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	玉手町115—113	50.26	高谷雅昭	専用住宅	安村	4.2	2×2mの範囲を人力掘削し、土師器、須恵器、埴輪片が少量出土
玉手山遺跡	旭ヶ丘1—509—21の一部	126.43	芝田輝昭	専用住宅	安村	4.9	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	旭ヶ丘1—509—21の一部	127.13	至田絹代	専用住宅	安村	4.9	遺構、遺物なし
安福寺横穴群	玉手町145—35	1,233.89	山西敏一	階段設置	安村	4.16～5.9	横穴墓道から土師器、須恵器出土
太平寺廃寺	太平寺2丁目239,240	249.79	浅田清美	木造2階建事務所	北野	4.23	遺構、遺物なし
太平寺廃寺	太平寺2丁目239,240	224.34	浅田清美	木造2階建事務所	北野	4.23	遺構、遺物なし
太平寺遺跡	太平寺2丁目237,238,239,240	160.52	森本泰江	木造2階建	安村	4.23	遺構、遺物なし
太平寺遺跡	太平寺2丁目237,238,239,240	91.26	森本泰江	木造2階建	安村	4.23	遺構、遺物なし
太平寺遺跡	太平寺2丁目237,238,239,240	211.87	森本泰江	木造2階建	安村	4.23	遺構、遺物なし
田辺遺跡	国分本町6—678—8の一部	57.72	関口和史	木造専用住宅	北野	5.7 ～5.8	本書掲載
船橋遺跡	大正1丁目426—5,427—7,427—3	479.15	筒井俊夫	給油所建築	北野	5.7 ～5.11	遺構、遺物なし
大県南遺跡	太平寺2丁目552—4,553—2	807.13	西尾トミエ	倉庫	安村	5.8	遺構、遺物なし
田辺遺跡	国分本町6—678—8の一部	60.58	古海成雄	木造専用住宅	北野	5.10	1×2mのトレンチ設定、遺構は近世のため池の肩部を検出
平尾山古墳群	青谷955 番地外	4,000.00	山西敏一	中学校	北野	5.28～5.31	遺構、遺物なし
田辺遺跡	田辺2—123—42	119.64	森田幸夫	専用住宅	北野	6.7	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	旭ヶ丘2—371—25,26	105.76	川邊浩悦	専用住宅	北野	6.11	盛土内からサヌカイト片が2点出土、他に遺構、遺物なし
太平寺遺跡	太平寺2丁目534-1	703.31	高井繁松	鉄筋共同住宅	北野	6.19～6.26	遺構は溝、住居関連遺構、遺物は土師器、須恵器、獣骨、柱痕
太平寺遺跡	太平寺2丁目544-3、544-1	709.80	山本育子	鉄骨倉庫	安村	7.2 ～7.7	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	旭ヶ丘2丁目369—30の一部	206.95	牧主利光	木造専用住宅	安村	7.9 ～7.10	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	旭ヶ丘2丁目369—30の一部	200.38	牧主利光	木造専用住宅	安村	7.9 ～7.10	遺構なし、遺物は土師器、石など少量
玉手山遺跡	旭ヶ丘2丁目369—30の一部	222.72	牧主利光	木造専用住宅	安村	7.9 ～7.10	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	玉手町364—10	339.43	中西雅紀	木造2階建	安村	7.11	遺構、遺物なし
高井田横穴群	高井田1,591—10	1,012.28	山西敏一	史跡公園	安村	7.16～9.10	未完成横穴2基、横穴4基検出、6世紀後半頃の横穴、埴輪、土師器、須恵器が出土
平尾山古墳群	青谷559—8	100.87	中野治	専用住宅	北野	7.23	遺構、遺物なし

遺跡名	所在地	面積 ㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
明神山古墳群	国分東条町3,754 他13筆	3,350.0	光洋精工 坪井珍彦	造成工事 アスファルト舗装工事	北野	7.26	建物、溝、土坑等の住居関連遺構奈良時代から近世の遺物が少量出土
田辺遺跡	国分本町7丁目1—20	14,605.00	山西敏一	中学校	北野	7.26～8.1	遺構なし、遺物は下層から鉄滓が少量出土
玉手山遺跡	旭ヶ丘1—282 —1	102.56	藤本春光	木造2階建	北野	8.21	遺構、遺物なし
平尾山古墳群	峠834 —7	602.23	冨宅照司	専用住宅の増築	北野	8.27～8.28	遺構、遺物なし、旧建物跡の基礎と線路下の礫敷土層確認
平尾山古墳群	雁多尾畑1,340	291.66	大東 清	畑造成の為の擁壁設置	北野	8.28	遺構、遺物なし
本郷遺跡	本郷5丁目237 —1他3筆	670.94	瀬川和哉	道路位置の指定	北野	8.28	遺構、遺物なし
平尾山古墳群	青谷45—2他	4951.57	湯上外喜夫	アクアピアアイスアリーナ新築工事	北野	9.3	遺構、遺物なし
玉手山遺跡	旭ヶ丘1—565 —3	695.32	門谷朝次	鉄骨新築	北野	9.4	遺構、遺物なし
平尾山古墳群	峠834 —2	210.25	冨宅一弘	木造2階建	北野	10.3	遺構、遺物なし
田辺遺跡	田辺1—2,028 —5	175.34	村上好彦	鉄骨新築	安村	10.11～10.12	本書掲載
玉手山遺跡	円明町493 —2、494 —2	144.15	居村俊彦	専用住宅	北野	11.5	1×2mのトレンチ設定、地表下約1m2中世の遺物包含層確認
原山遺跡	旭ヶ丘3—1067—11	319.68	川田賢三	専用住宅	安村	11.21	遺構、遺物なし
田辺遺跡	国分本町5—1,521—1	161.14	稲山喜代一	木造一部RC造り3階建	北野	11.29	1×2mのトレンチ設定、現地表下20～40㎝で地山を確認、遺構、遺物なし
平尾山古墳群	雁多尾畑3,842	1,538.0	山西敏一	ログハウス	北野	12.5	

1990年度　柏原市内遺跡群立会調査一覧

遺跡名	所在地	面積 ㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
法善寺廃寺	法善寺3—857	402.24	吉村喜代次	鉄骨倉庫	北野	7.23	遺構、遺物なし
大県遺跡	大県4—84—2	128.73	八木泰正 八木秀雄	専用住宅	北野	9.1	遺構、遺物なし
田辺遺跡	田辺2—8～15～2—4550—3		加藤政男	大阪教育大学	北野	11.21	遺構、遺物なし
本郷遺跡	本郷1—682 —1	393.12	藤井紀代子	鉄骨マンション	北野	11.30	遺構、遺物なし

第１章　大県遺跡



図－１　大県遺跡調査地位置図

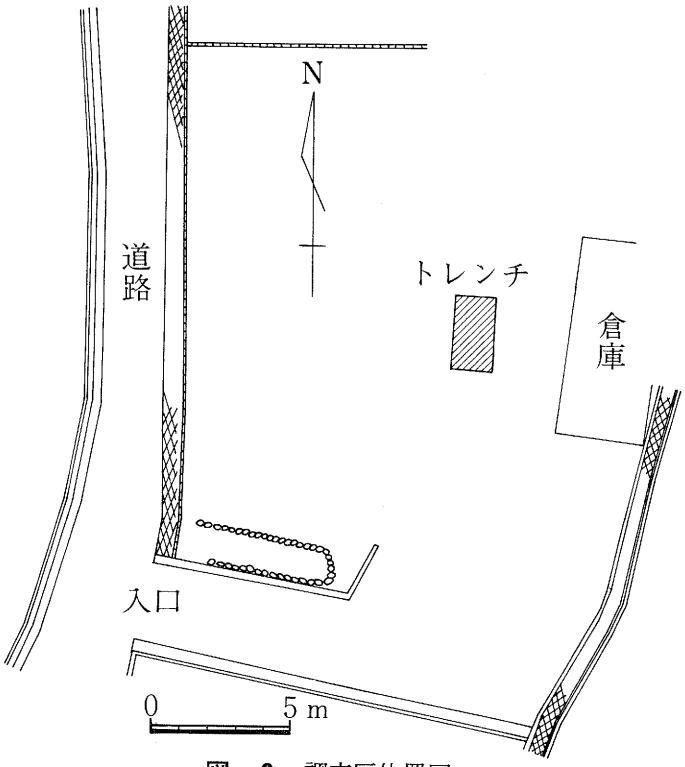
90―２次調査

- 調査地区所在地　　柏原市平野２丁目287 ―３
- 調査担当者　　北野　重
- 調査期間　　1990年３月３日～３月６日
- 調査面積　　10㎡／313.5 ㎡

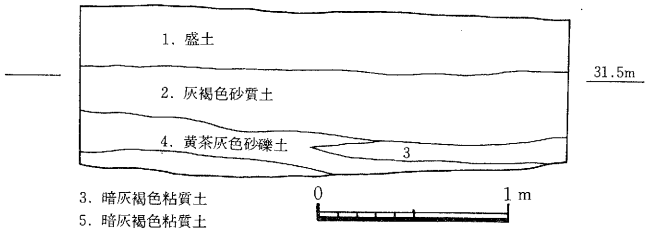
当調査区は、大県遺跡の中心部東寄りの生駒山地西麓部にあたり、北側に谷山渓、南側に宮山渓の谷筋に挟まれた安定した丘陵上に位置している。

周辺部における既住の調査では、この立地が古代から良好であった事を証明するように縄文時代から歴史時代までのさまざまな遺構と遺物が出土している。

調査は、東西方向1.5 m、南北方向2.6 mのトレンチを設定した。土層は、第1層が約30㎝の盛土があり、近世の時期の住宅に伴った盛土である。第2層は、灰褐色砂質土が25～35㎝の厚さでみられた。この土層から須恵器や土師器の破片と中近世の陶磁器類が出土した。自然地形に添って北東側から南西側への緩斜面となっており、南西部の方向に厚く堆積している。第3層は、暗灰褐色粘質土である。約10㎝の厚さを測る遺物包含層である。時期は古墳時代と考えられるが土師器片が少量出土しているのみである。第4層は、黄茶灰色砂礫土で北東部に厚く10～20㎝堆積している。この土層も古墳時代の遺物包含層である。基礎掘削深度が浅いので当初調査予定部分を縮小し土層の観察だけに留めた。



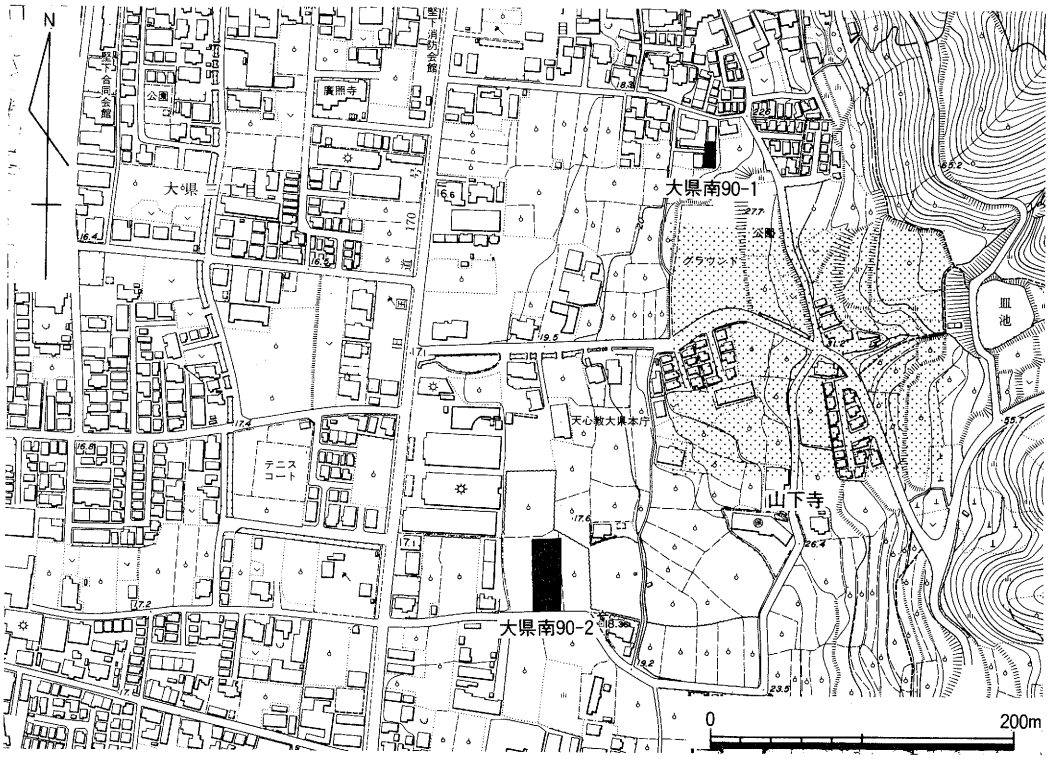
図－2　調査区位置図



図－3　トレンチ断面図

遺物は、図化しえたものに瀬戸・美濃焼の灰釉丸皿1点、灯明具の受皿1点、片口鉢1点、備前焼のすり鉢1点がある。丸皿は径11.0㎝、高さ2.1 ㎝ある。受皿は径6.2 ㎝、高さ1.3 ㎝ありやや小ぶりである。いずれも内面にのみ釉が施こされている。鉢は径17.8㎝で、黄土色の釉がかかり、片口の痕跡をとどめているにすぎない。すり鉢は断面のみを測り、口縁部が厚く、すり目は12本で底から真上に引き上げている。

第２章　大県南遺跡



図－４　大県南遺跡調査地位置図

90―１次調査

・調査地区所在地　　柏原市大県４丁目387 ―１

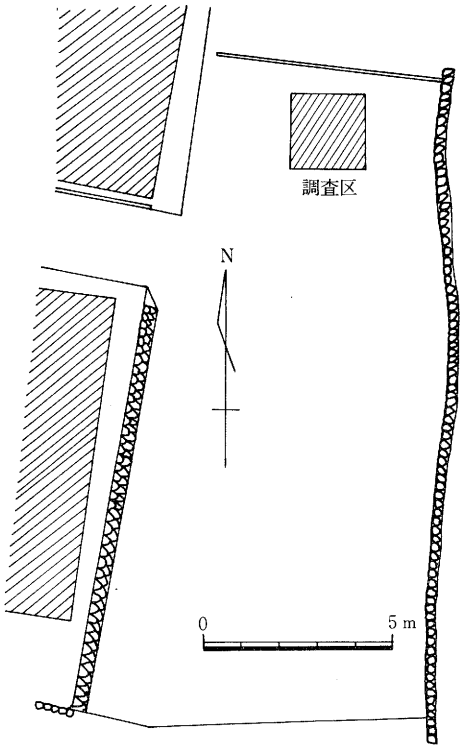
・調査担当者　　北野　重

・調査期間　　1990年２月６日

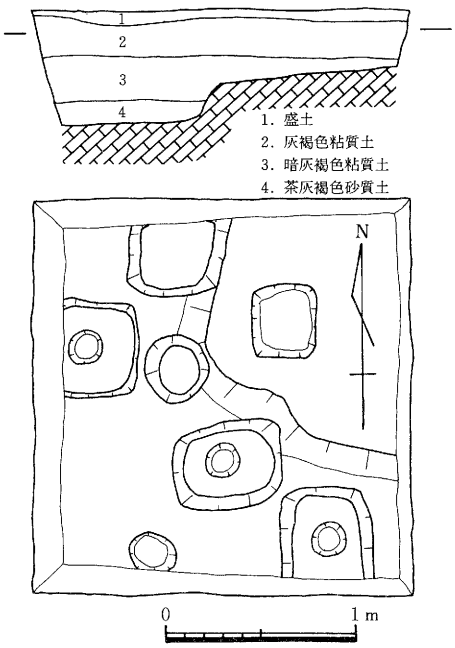
・調査面積　　４㎡／184.68㎡

当調査区は、東高野街道と生駒山地の丁度中間部に位置する。大県南遺跡の中心部にあたり南東部へ約100 ｍの距離に白鳳時代創建の古代寺院山下寺（大県南廃寺）が所在する。当調査区を含めこの寺院建立したと考えられる豪族の集落が広がる地域である。

調査は、当該地の北側に２×２ｍのトレンチを設定した。基本土層は、第１層が５～８㎝の厚さを測る近年の盛土である。第２層は、灰褐色粘質土である。全体に20㎝の厚さがあり、田畑の耕作土と考えられる。第３層は、暗灰褐色粘質土である。５～25㎝を測り西側で厚くなっている。第４層は、茶灰褐色砂質土で西半部分にのみ検出した。厚さは、約15㎝である。

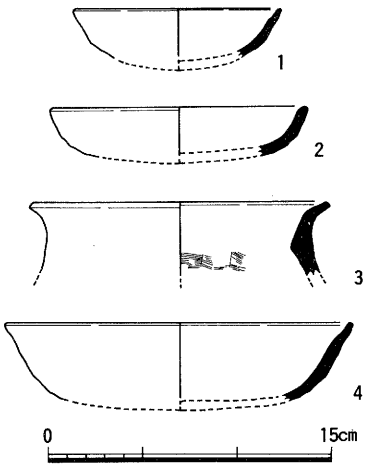


図－5　調査区位置図



図－6　トレンチ平面図・断面図

第３、４層は、古墳時代後期から奈良時代にかけての遺物包含層である。土師器、須恵器、鉄滓等が出土した。この包含層を除去後に７ケのピットを検出した。内５ケは、一辺50㎝前後の方形プランの10数㎝の円形柱穴を持つ建物ピットである。遺存状態は、約10㎝位の深さがある。他の２ケのピットは、円形である。それぞれ建物を構成すると考えられるが詳細は不明である。鉄滓の出土は、当遺跡も又大県遺跡と同様に鍛冶生産を行う集団が居住していた事を示すものである。

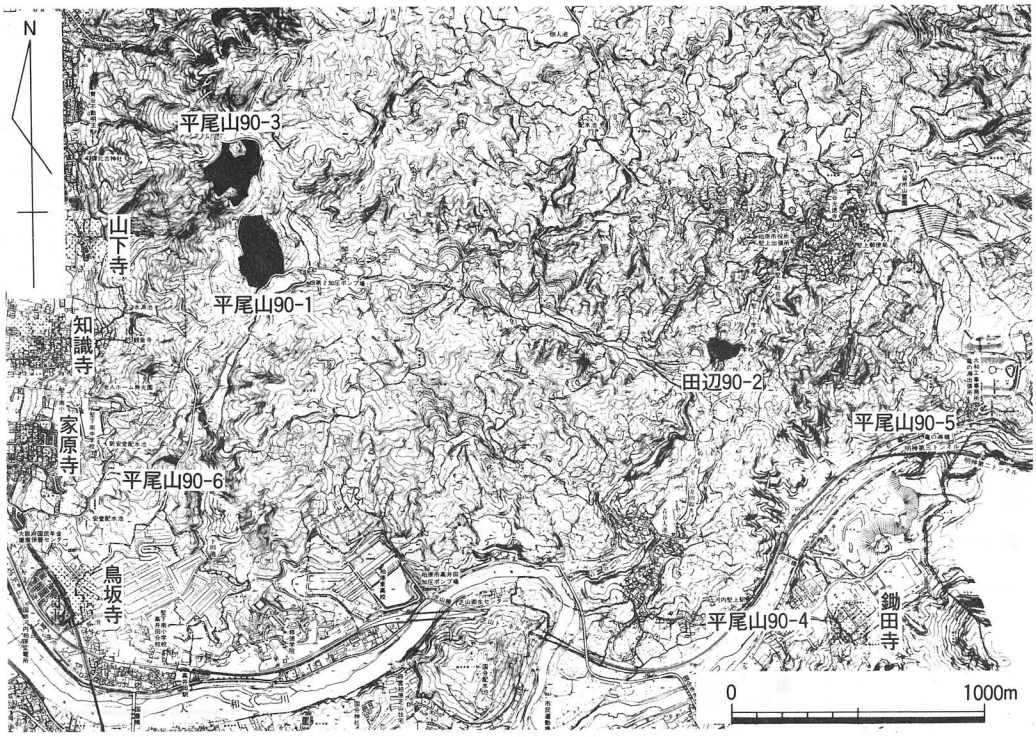


図－7　出土遺物

出土遺物の中で実測出来たのは土師器４点のみである。杯３点、甕１点である。１、２、４の杯は口径10.9、13.4、18.1㎝を測る。色調は、茶褐色から橙茶色の当地域産の胎土である。３は、頚部は外反気味に立ち上がり口縁端部近くでくの字形に折れ曲がる。外面はナデ調整、内面は板ナデ調整である。杯と同様の胎土であるが砂粒が少し多く含まれている。

鉄滓は、84ｇ１点が出土した。

第３章　平尾山古墳群



図－８　平尾山古墳群調査地位置図

90―４次調査

・調査地区所在地　　柏原市大字峠834 ―７

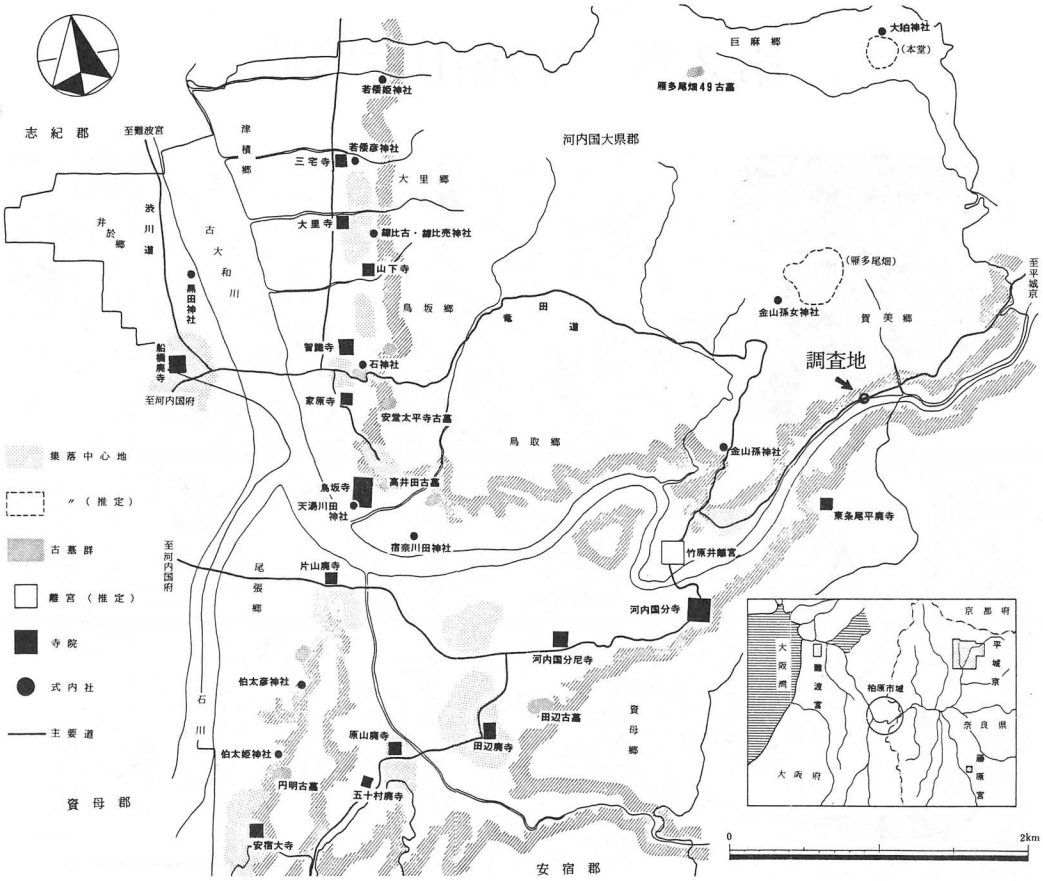
・調査担当者　　北野　重

・調査期間　　1990年８月27日～８月28日

・調査面積　　４㎡／602.23㎡

当調査区は、生駒山地の南端部で直ぐ南側を大和川が東から西へ流れている亀ノ瀬あたりである。竹原井離宮から平城京へ続く古道の“竜田道”が想定されている位置にありトレンチ調査を実施した。急な斜面地の幅の狭い平坦地に道路と家屋が並んでいる。

調査は、南北に２ケ所のトレンチを設定した。北側のトレンチは、約１ｍ下層より旧鉄道の敷石を確認した。地山（黄褐色粘質土）まで1.3 ｍの深さである。南側のトレンチは、約２ｍで地山を確認した。古くは現在よりさらに平坦地が狭かったようである。竜田道に関連する地層は、後世の削平によって消滅した可能性が高い。



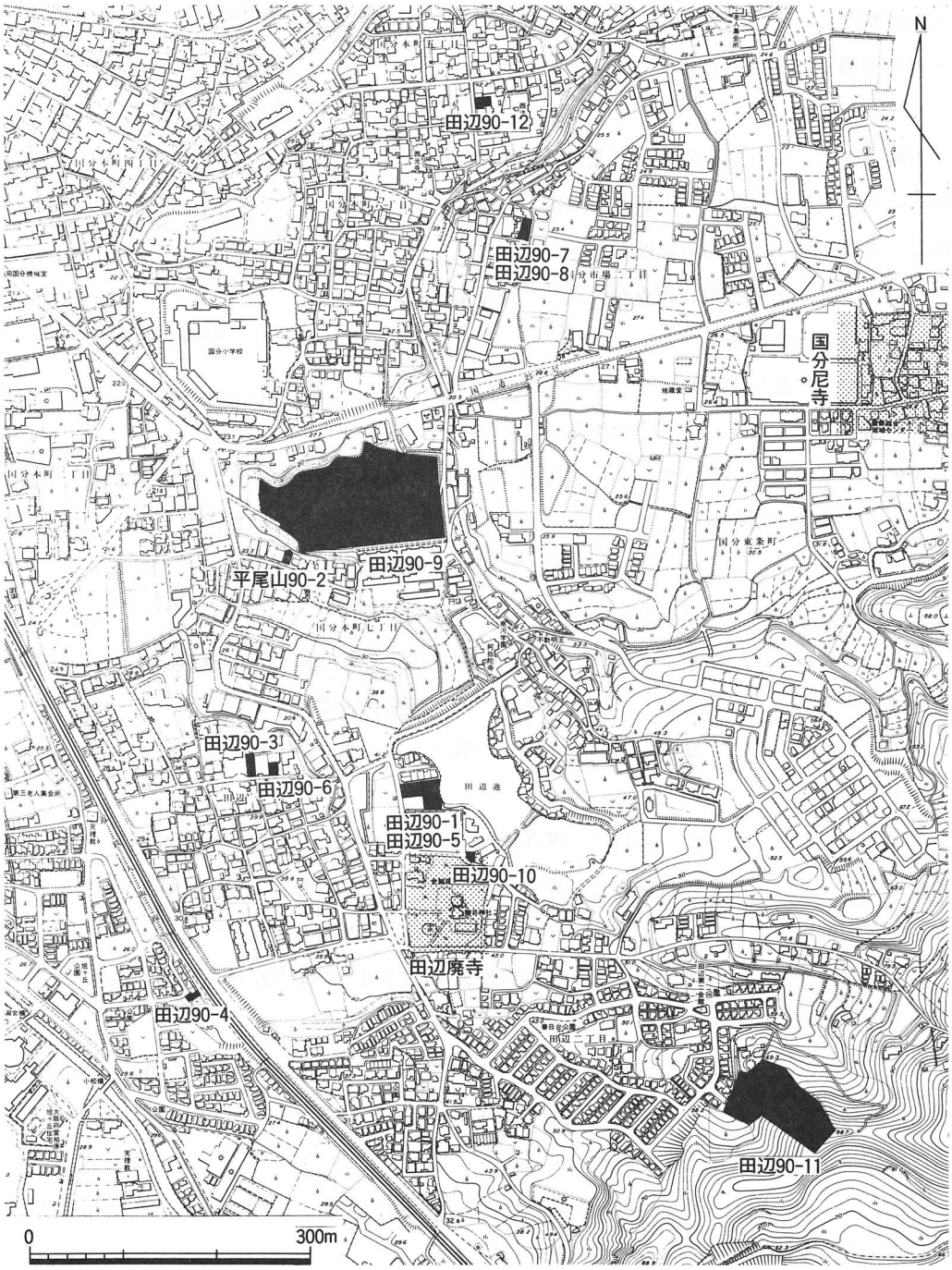
図－9　奈良時代のかしわら（柏原市歴史資料館昭和61年秋季特別展より転載）

古道竜田道は、難波宮と平城京を結ぶ主要路であった。現在その行路を特定することは難しい。しかし、全く消滅してしまったということでもなく、何らかの痕跡や現在の道路に後続性が見られる。奈良時代以降であるので文献史学からの実証も全く否定的ではない。また、考古学的調査からのアプローチも可能であろう。

昭和60年、柏原市教育委員会が青谷の地で発掘調査を実施した。この地は、奈良時代の瓦が多数採集されることから青谷廃寺とされていたが、調査の結果、古代寺院址ではなく、竹原井頓宮と考えられる遺構が検出された。四方を山地に囲まれ、大和川がこの地を包含するかのように巡り安定した丘陵上に位置する。竜田道は、この頓宮と考えられる遺跡を経由していたと想定する事は衆目の一致するところである。大和川の対岸に河内国分寺が在り、多くの人々の参拝があり栄えた交通の要所である。

今回の調査は、竜田道の痕跡を見い出す絶好の機会であったが、残念な事に後世の削平を受けていた。今後も鋭意古道の検証を実施していきたい。

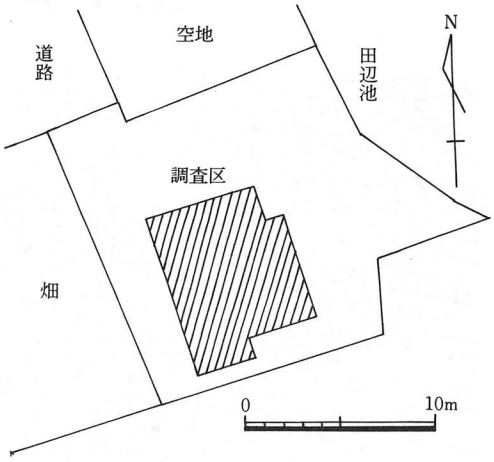
第４章　田辺遺跡



図－10　田辺遺跡調査地位置図

90―5次調査

・調査地区所在地　柏原市田辺1丁目2034－1
・調査担当者　北野　重
・調査期間　1990年3月7日～3月15日
・調査面積　57.5㎡／244.06㎡



図－11　調査区位置図

当調査区は、史跡田辺廃寺から北側へ50mの位置にあり、東側に瓢箪形の田辺池が隣接し、講堂跡等の遺構が検出される可能性があった。当初4×7mのトレンチを設定し調査を実施したが遺構が検出されたので拡張した。

厚さ約20㎝の表土（耕作土）を除去した時点で、9条の溝と土坑1、ピット2を検出した。それぞれ後世の削平と攪乱のため遺存状況が良好でない。各遺構の埋土から瓦、土師器、黒色土器、サヌカイト等を検出した。瓦は、奈良時代の田辺廃寺の瓦と中世の時期の瓦が出土した。それぞれ大きな形状のものはなく破片であり、移動して廃棄したものか攪乱の激しさを示すものである。中世の時期の瓦がほとんどである。

当初のトレンチより南側へ3.0 m、北側へ2.0 m拡張した。検出した遺構は、当初のトレンチ同様の溝とピット多数である。主な遺構について概略を説明する。

溝1は、西側へ約20°傾きを持つ南北方向の溝である。長さ2.5 mで途切れている。近世の瓦と土師器片が出土している。

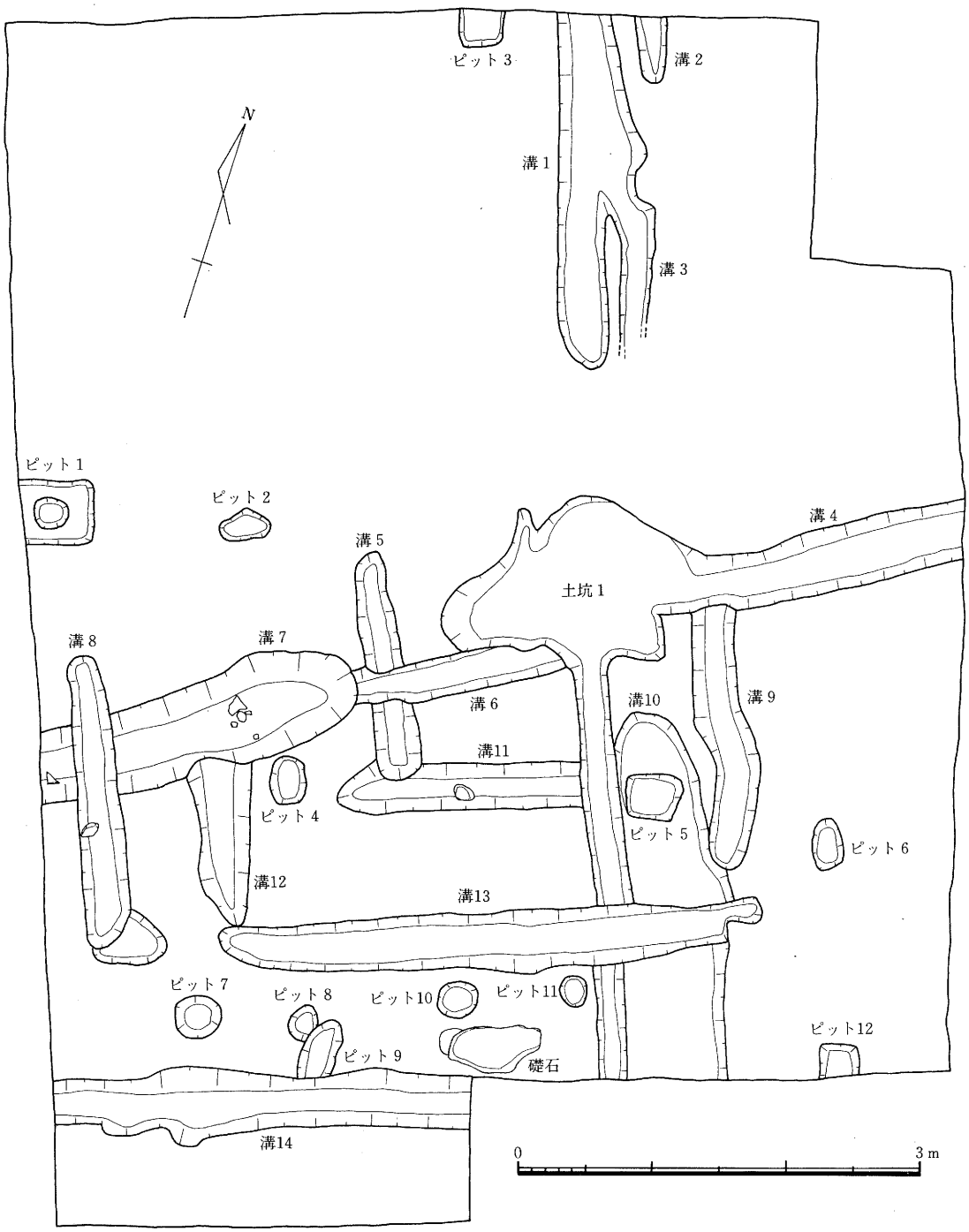
溝7は、幅70㎝、長さ2.5 m以上、深さ10㎝である。埋土中から瓦、土師器、須恵器の細片が出土した。それぞれ奈良時代の時期のものである。しかし、溝4、6と土坑1と類似した埋土等から中世以降の溝で、田辺廃寺の廃絶後の集落関係の遺構と考えられる。

溝は、14条検出し、溝4、6、7とそれ以外の溝に約10°の傾きが見られる。遺構の性格が異なるのか時期によるのか不明である。

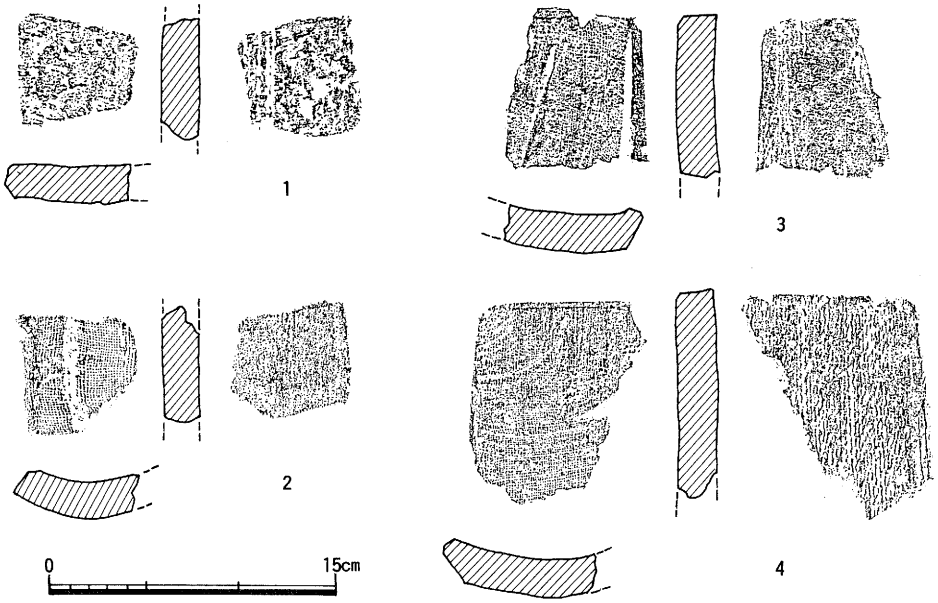
ピット1は、径約50㎝の方形掘方に25㎝の円形柱穴がある。出土遺物がなく時期は決め難い。柵又は建物を構成するピットと考えられるが同様のピットは調査区内から検出されなかった。深さが30㎝程あるので削平を受けたとも言えない。

ピット7、8、10、11は、ほぼ同一方向に並び等間隔である。径20～35㎝、深さ5～10㎝の円形ピットで中世以降の建物であろう。

ピット10の直ぐ南側に30×70㎝の平坦な面を持つ石がある。建物の礎石に使用されていた可能性がある。


N
ピット3
溝2
溝1
溝3
ピット1
ピット2
溝5
溝4
土坑1
溝8
溝7
溝6
溝10
溝9
溝11
ピット4
ピット5
ピット6
溝12
溝13
ピット7
ピット8
ピット10
ピット11
ピット12
ピット9
礎石
溝14
0
3 m

図－12　トレンチ平面図



図－13　出土遺物

土坑１は、東西1.5 m、南北1.0 m、深さ約10㎝の不整形な土坑である。埋土中から土師器片が少量出土したが時期は不明である。

当調査区の地山は、黄褐色粘土である。粘性が強く保水性が良いので住環境として生活するためには排水溝の整備や整地が必要な場所である。今回検出した溝の多くは、排水のために掘られた性格を有する。

昭和56年、大阪府教育委員会が当調査区の南側で発掘調査を実施している。今回の調査結果と同様に溝、土坑、ピット等を検出しており、田辺廃寺に関連する遺構は検出されなかった。

調査区の周辺部で有舌尖頭器や石鏃等のサヌカイト石器が出土している。当調査区でもサヌカイト剝片が出土したので黄褐色粘土層を掘り下げた。サヌカイトの出土は、遺物包含層のみに限られ粘土層から出土しなかった。

出土遺物は、瓦、土師器、須恵器、陶器、サヌカイト等がある。時期は、中世以降のものが大半である。瓦は、すべて平瓦で凹面に布目が付くものと付かないものがある。前者は、土師質と須恵質のものがあり、田辺廃寺に使用された瓦であろう。破片であるが紹介しておきたい。

１は、土師質の平瓦である。凹面に布目、裏面に縄目痕がわずかに遺存する。色調は赤茶色である。２は、土師質の平瓦である。凹面は、縦７本／㎝、横８本／㎝の布目痕がある。凸面は、縄目叩き後すり消しが行われている。色調は、灰黄色である。３、４は、須恵質の平瓦である。凹面は、縦８、９本／㎝、横８本／㎝の布目痕があり、凸面は、縄目叩き後すり消しと縄目叩きである。色調は、暗青灰色、灰青色である。作りは、１枚作りである。

90―6次調査

- 調査地区所在地　柏原市田辺1丁目986 ―3
- 調査担当者　北野　重
- 調査期間　1990年3月13日～3月20日
- 調査面積　37.4㎡／90.74 ㎡

当調査区は、田辺廃寺から西方へ200 mの位置の丘陵上にある。個人住宅の建築に伴う事前の発掘調査である。

調査は、南北に2ケ所のトレンチを設定した。南側のトレンチを第1トレンチとし、北側を第2トレンチとした。第1トレンチは、東西5.5 m、南北3.5 mの規模である。全体に旧家屋の基礎等によって大きく攪乱を受けているが、表土を10～30㎝掘り下げた段階で焼土坑1と土坑1を検出した。

焼土坑1は、トレンチの南東部にほぼ円形に落ち込んだ土坑である。径は1.3 m、深さ約50㎝で底部は平底である。底部の南北端に焼成を受けた25～50㎝の石が置かれている。埋土は、炭及びスサの入った壁土が多量に含まれていた。しかし、時期を決める遺物の出土がなく遺構の性格も明確でない。周辺部から中世以降の瓦の破片が少量あり、瓦窯の痕跡とも考えられる。

土坑2は、焼土坑1の西側から幅約2m、長さ3.5 m、深さ20～30㎝を測る長方形土坑である。底部や側壁は良好な黄褐色粘土であり、端部が粘性が弱くなった土層となっている事から焼土坑1が瓦窯とした場合に粘土の採掘坑と考えられる。

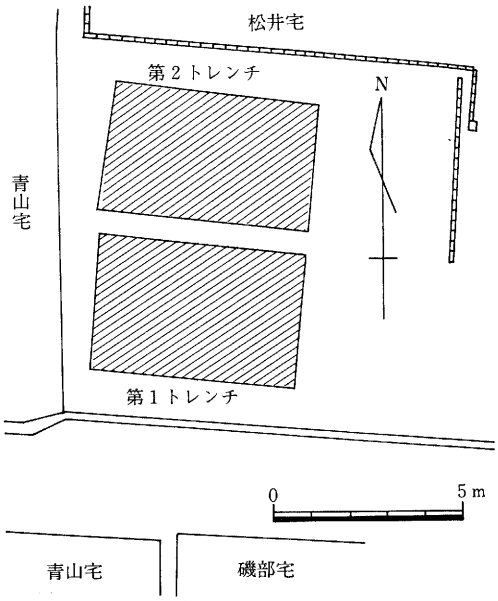
第2トレンチは、3.3 ×5.5 mの規模で設定した。遺構は、土坑2～4と溝1を検出した。

土坑2は、径1～1.5 mの楕円形土坑である。深さ約30㎝を測る。底部から江戸後期の陶磁器類の破片が出土した。

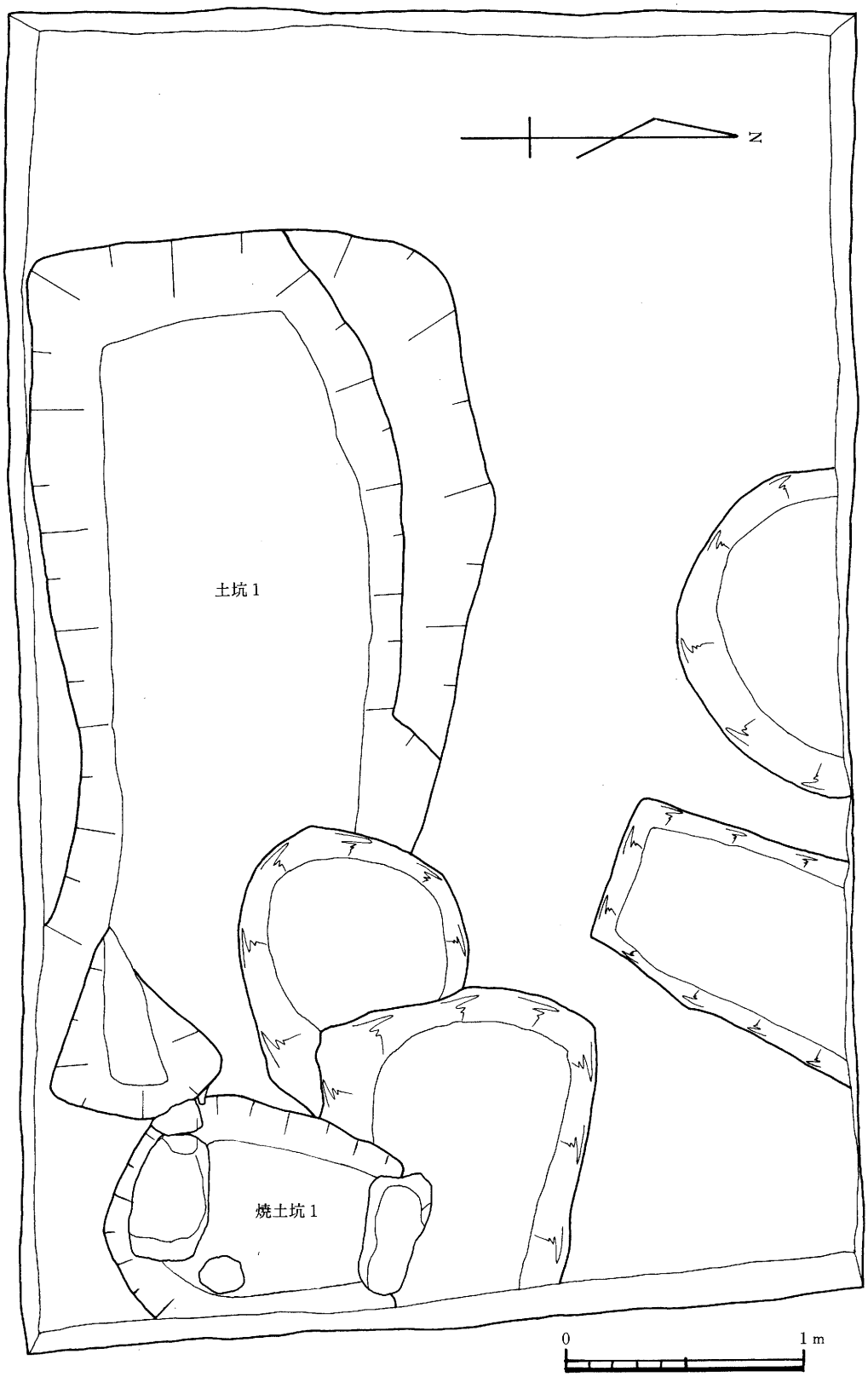
土坑3は、土坑2を切るように検出した径60㎝、深さ20㎝の土坑である。埋土から瓦が出土した。中世以降である。

土坑4は、後世の攪乱によって規模が不明であるが、底部から5～15㎝大の小石を集積した部分を検出した。石の中に瓦も混入していた。

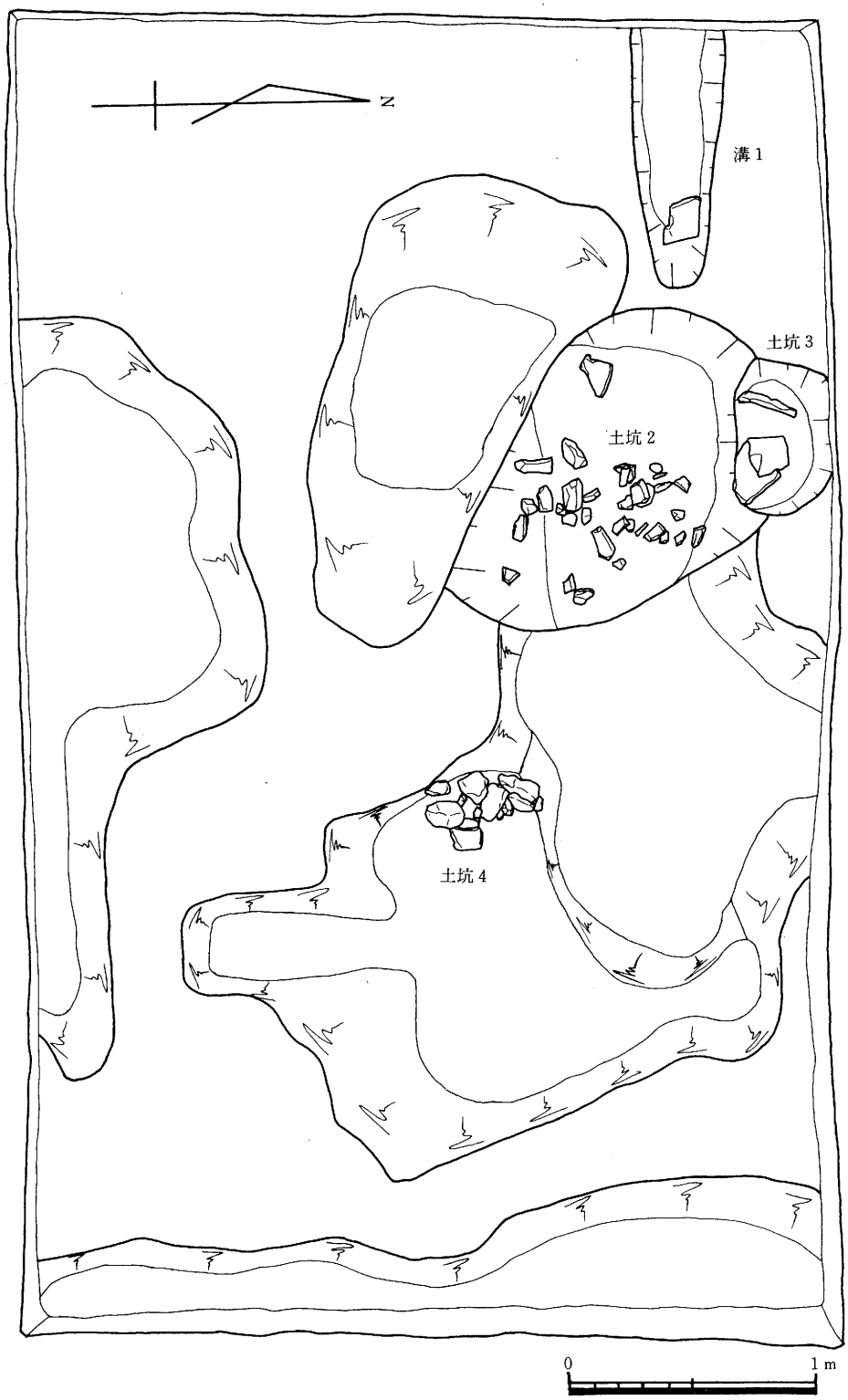
溝1は、調査区の西側から長さ1m以上、幅40㎝、深さ10㎝を測る溝である。埋土から中世以降の瓦が出土している。



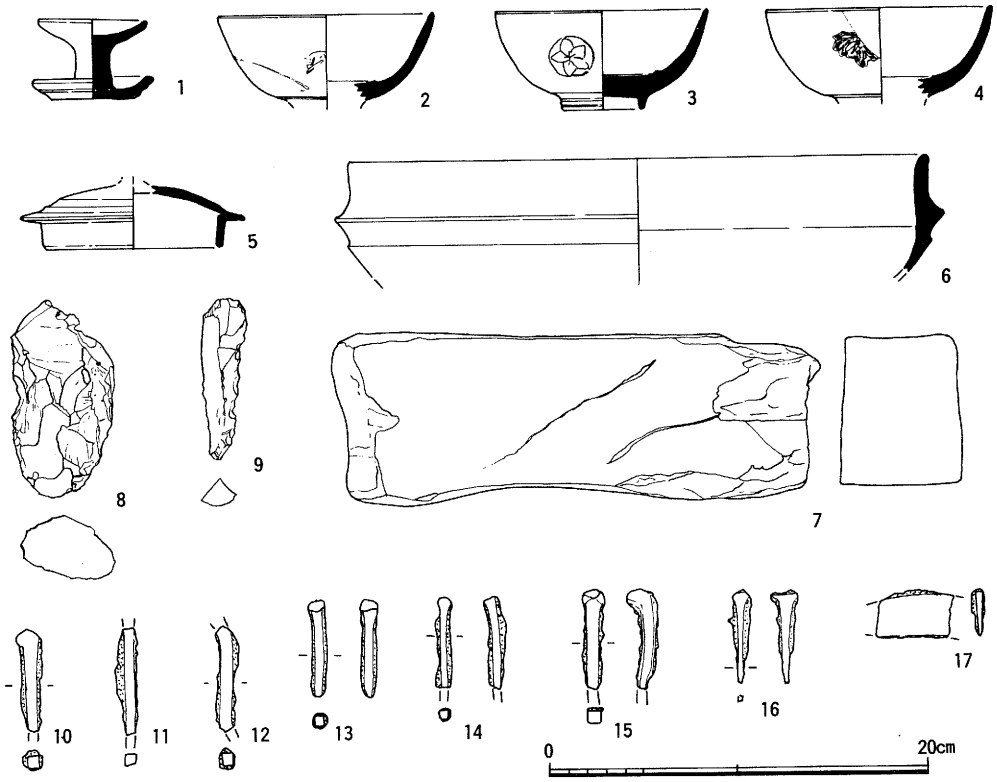
図―14　調査区位置図



図－15　トレンチ南半部平面図



図－16　トレンチ北半部平面図



図－17　出土遺物

これらの遺構は、瓦の工房跡であった可能性を指摘しておきたい。当地域は、江戸時代以降に良質の粘土が採集されることから瓦窯が造られたという伝承があり、窯体の検出例もある。

出土遺物は、近世の土師器、陶磁器類、砥石、鉄鎌、鉄釘、サヌカイト石核等が出土した。

1は、土師質の台付灯明皿である。口径5.5 ㎝、器高4.4 ㎝、底径4.3 ㎝を測る。焼成は良好で全体にやや媒けている。胎土は、微砂粒を含むが密である。色調は、白灰色である。

2は、陶磁器碗である。口径11.2㎝、現器高4.5 ㎝を測る。色調は、乳青白色、染付は、藍色、断面は、白色である。

3は、陶磁器碗。口径11.1㎝、器高5.3 ㎝、底径4.0 ㎝を測る。色調は、白灰色。染付は、藍色。断面白色である。3ケ所に丸文があり、中心に桜花模様がある。ほぼ完形である。

4は、陶磁器碗、口径11.6㎝。色調は、濃青緑色に藍色の染付である。

5は、陶磁器蓋である。口径9.1 ㎝。色調は、淡黄緑色の釉薬で乳黄色の素地である。

6は、口径29.8㎝の土鍋である。胎土は、砂粒を多く含み粗い。色調は、淡橙色である。

7は、土師質の砥石である。2面が弓状に磨き減っている。胎土はやや粗く砂粒を含む。

18、19は、サヌカイト剝片である。両方共片面は自然面をのこす。

10～16は、断面方形の鉄釘である。17は、鎌か小刀の破片である。

90―7次調査

・調査地区所在地　　柏原市国分本町6丁目678 ―8の一部

・調査担当者　　北野　重

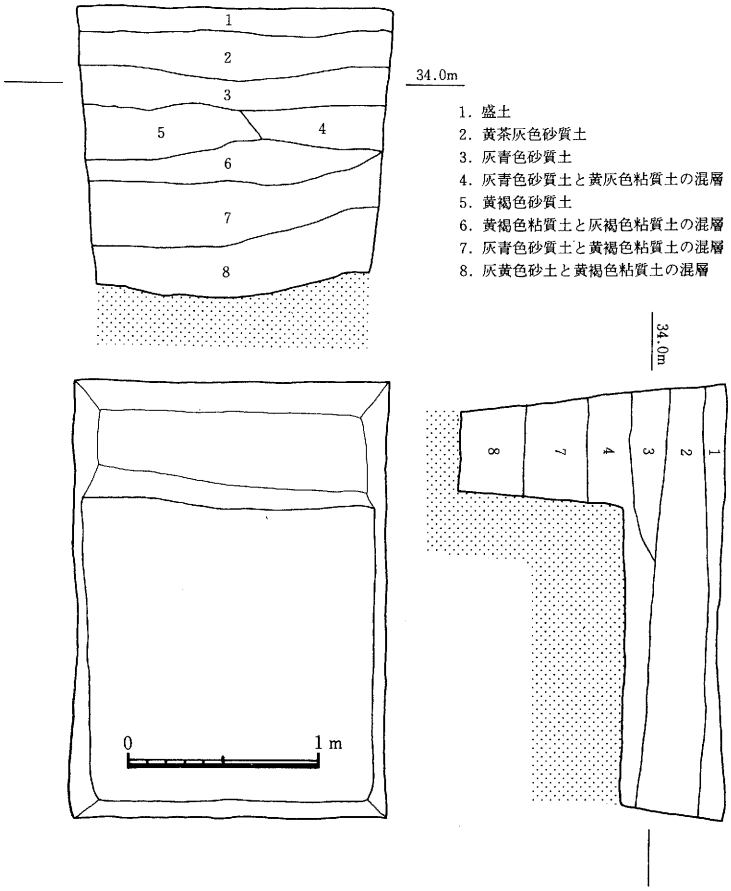
・調査期間　　1990年5月7日～8日

・調査面積　　3.7 m²／57.72 m²

当調査区は、田辺遺跡の北側に位置する。小さな谷を隔てて南側に国分小学校がある。標高は、約34～35mである。

調査は、東西方向の小尾根筋上の南側斜面で、1.6 ×2.3 mのトレンチ調査を実施した。1.4mまで掘削したが、全部盛土である。1～5層までが近年の盛土である。6～8層以下が遺物包含層である。遺物は、土師器、須恵器、鉄釘、鉄滓等が出土した。時期が明確でないが、周辺部の調査結果から6世紀末から7世紀中頃にかけての遺物が多いようである。

今回の調査においても鉄滓が出土した。柏原市域の鍛冶関係の遺構と遺物を検出した調査例を記載しておきたい。



図―18　トレンチ平面図・断面図

図－19　鉄滓出土地

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	製鉄関連遺物	遺　構
1	大県遺跡	81—8次	柏原市大県4—91—213	鉄滓、フイゴ、砥石	
2	〃	82—9次	〃　〃 4丁目	鉄滓（104 ⒅）、フイゴ（386 点）、砥石（10点）	鍛冶炉5基
3	〃	83—2次	〃　〃 4丁目	鉄滓（45.1⒅）、フイゴ（36点）、砥石（7点）	
4	〃	83—4次	〃　平野2—195 —1	鉄滓（1.76⒅）、フイゴ（3点）、砥石（3点）	
5	〃	83—5次	〃　〃 2—210 —1	鉄滓（15⒅）、フイゴ（有）	
6	〃	83—7次	〃　大県4—91—1	鉄滓（有）	
7	〃	84—1次	〃　〃 4丁目	鉄滓（154.3 ⒅）、フイゴ（63点）、砥石（38点）	鍛冶炉1基
8	〃	84—7次	〃　〃 4—47—3	鉄滓（2.1 ⒅）、フイゴ（1点）	
9	〃	85—2次	〃　平野2—1—5	鉄滓（66.5⒅）、フイゴ（430点）、砥石（8点）	鍛冶炉4基
10	〃	86—2次	〃　〃 2—271	鉄滓（有）ピット内より出土	
11	大県南遺跡	80—1次	〃　大県4—585 —2	鉄滓（有）	
12	〃	80—2次	〃　〃 3—353—1	鉄滓（864g）	
13	〃	81—2次	〃　太平寺1・2	鉄滓（有）、フイゴ（有）、砥石（3点）	
14	〃	82—1次	〃　大県4—474	鉄滓（60g）、銅滓（20g）、フイゴ(2点)、炉材(3)	
15	〃	83—1次	〃　平野2—16—8	鉄滓（8.3⒅）、フイゴ（5点）、砥石（5点）	
16	〃	83—4次	〃　大県4—520 —2・3	鉄滓（150 g）	
17	〃	83—5次	〃　〃 4—418	鉄滓（350 g）	
18	〃	83—6次	〃　〃 3—509 —1	鉄滓（7.98⒅）、フイゴ（5点）、砥石（6点）	
19	〃	84—1次	〃　〃 4—422	鉄滓（305g）	
20	〃	85—1次	〃　〃 4—18	鉄滓（51g）、フイゴ（1点）	鍛冶炉1基
21	〃	88—3次	〃　〃 4—386	鉄滓（506 g）、フイゴ（4点）	
22	太平寺遺跡	83—4次	〃　安堂町989 —1	鉄滓（6.8 ⒅）、銅滓（18g）、フイゴ（3点）	
23	〃	84—1次	〃　〃 903 —1	鉄滓（2.5 ⒅）、フイゴ（有）	
24	〃	87—1次	〃　太平寺2—543 —1	鉄滓（有）、フイゴ（有）、トリベ（4点）	
25	〃	89—3次	〃　太平寺2丁目534 —1	鉄滓（有）	
26	安堂遺跡		〃	鉄滓（有）	
27	高井田遺跡	83—1次	〃　高井田272	鉄滓（有）、銅滓（6g）、フイゴ（9点）、ルツボ	木炭窯1基
28	〃	84—1次	〃　高井田272	鉄滓（有）、フイゴ（有）	木炭窯2基
29	〃	86—1次	〃　〃 272	鉄滓（3.2 ⒅）、フイゴ（4点）	
30	〃	87—3次	〃　高井田及び安堂町	鉄滓（3.257 g）、フイゴ（14点）	
31	雁多尾畑支群	—	〃	鉄滓	
32	太平寺支群	81—1次	〃　安堂町878	鉄滓（有）	
33	〃	83—1次	〃　安堂町493 甲、495 -1	鉄滓（有）	
34	〃	86—1次	〃　太平寺2丁目	鉄滓（11.2⒅）、フイゴ（10点）、砥石（3点）	鍛冶炉10基
35	大県支群	86—3次	〃　平野235 —1	フイゴ（有）	
36	玉手山遺跡	83—3次	〃　玉手町	鉄滓（98g）、フイゴ（1点）	
37	田辺遺跡	81—5次	〃　田辺2—2059—3	鉄滓（有）	
38	〃	82—1次	〃　国分本町7—1988	鉄滓（75g）	
39	〃	82—5次	〃　〃 7—1965—2	鉄滓（30⒅）、砥石（3点）	
40	〃	84—2次	〃　〃 7—910	鉄滓（710g）、フイゴ（1点）	鍛冶炉2基
41	〃	84—3次	〃　〃 7—1—20	鉄滓（122.4g）、フイゴ（6点）	
42	〃	87—5次	〃　〃 6—3—16	鉄滓（551 g）	
43	〃	89—2次	〃　〃 6—11—14	鉄滓（482⒅）、フイゴ（421 点）、砥石（8点）	
44	〃	89—3次	〃　〃 6—763 —8	鉄滓（2.1⒅）、フイゴ（1点）	
45	〃	90—7次	〃　〃 6—678—8	鉄滓（有）	
46	〃	90—10次	〃　〃 1—2028—5	鉄滓（有）	
47	原山遺跡	83—1次	〃　旭ケ丘3—1879—1	鉄滓（440g）、フイゴ（1点）	鍛冶炉1基
48	〃	88—2次	〃　〃 3—7	鉄滓（410g）、窯壁（3）	

90—10次調査

・調査地区所在地　柏原市田辺１丁目2028—５

・調査担当者　安村俊史

・調査期間　1990年10月11日・12日

・調査面積　９㎡／175.34㎡

調査地は、史跡田辺廃寺の北東に位置し、田辺廃寺に関連する遺構の存在も考えられる位置であった。まず、調査対象地の西端近くに1.5 m×４mの南北方向のトレンチを設定し、調査を実施したところ、ピットや土坑が検出され、その一部が東側に続いていることが確認された。そのため、1.5 m×２mの範囲を拡張し、遺構の確認を行なった。検出された遺構は、ピット２、土坑１、溝１である。

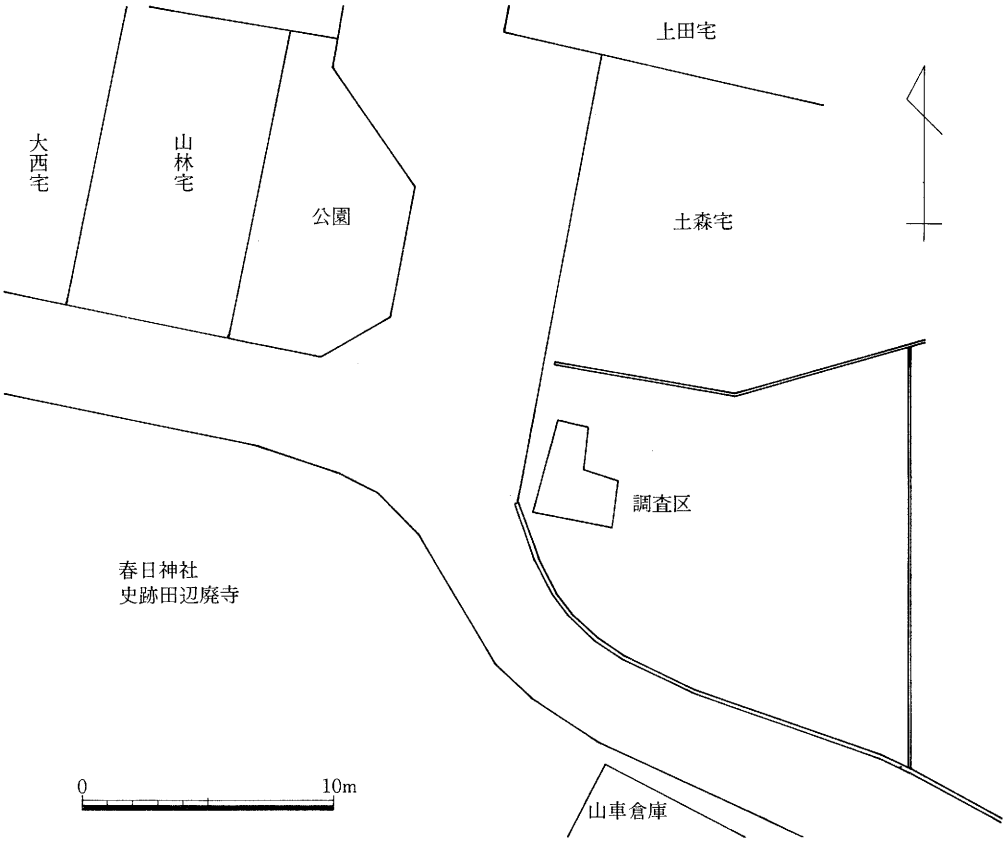
ピット—１は、ピット—２・土坑—１に先行する直径30㎝、深さ13㎝のピットである。土師器・須恵器片が出土しているが、時期は不明である。

ピット—２は、46㎝×34㎝の楕円形平面を呈する。深さは17㎝、柱の直径は８㎝である。遺物は出土していない。

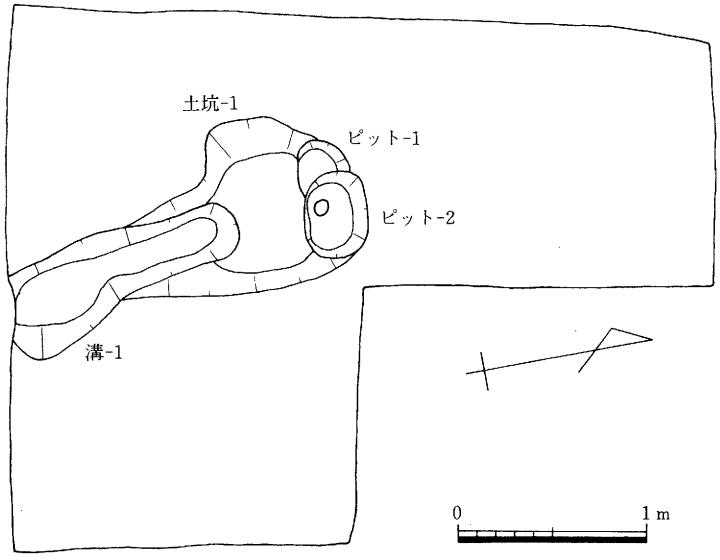
土坑—１は、直径約90㎝の円形平面を呈する。深さは約20㎝。ピット—１・２を切り込んで掘られている。淡灰褐色の埋土からは、土師器・須恵器・瓦片が出土しているが、時期は確認できない。ただし、平瓦は一枚作りのものであり、奈良時代のものと考えられる。

溝—１は、幅約40㎝、長さ130 ㎝以上で、土坑—１につながる。深さは最大で25㎝、溝底面のレベルは溝中央が最も低く、両端がやや高い。したがって、溝としての機能に疑問も残る。埋土は、土坑—１と区別できず、同時期と考えてよいと思われる。遺物は出土していない。

以上のように、本調査では顕著な遺構・遺物は認められなかった。遺構の時期は、数少ない遺物から奈良時代以降と考えられ、中世まで下ることはないであろう。遺構面である黄褐色粘土の地山面まで建物の基礎が達しないことと、現代の削平によって地山面が相当削られていること、湧水を伴うことなどから調査範囲の拡張は行なわなかった。田辺廃寺の北東部は、地形が高くなっていたようであり、後世の削平が著しい。そのため、調査地周辺のこれまでの調査でも、地山の削平が認められ、田辺廃寺に伴うと考えられる遺構は検出されていない。回廊等付属施設の確認が今後の課題である。

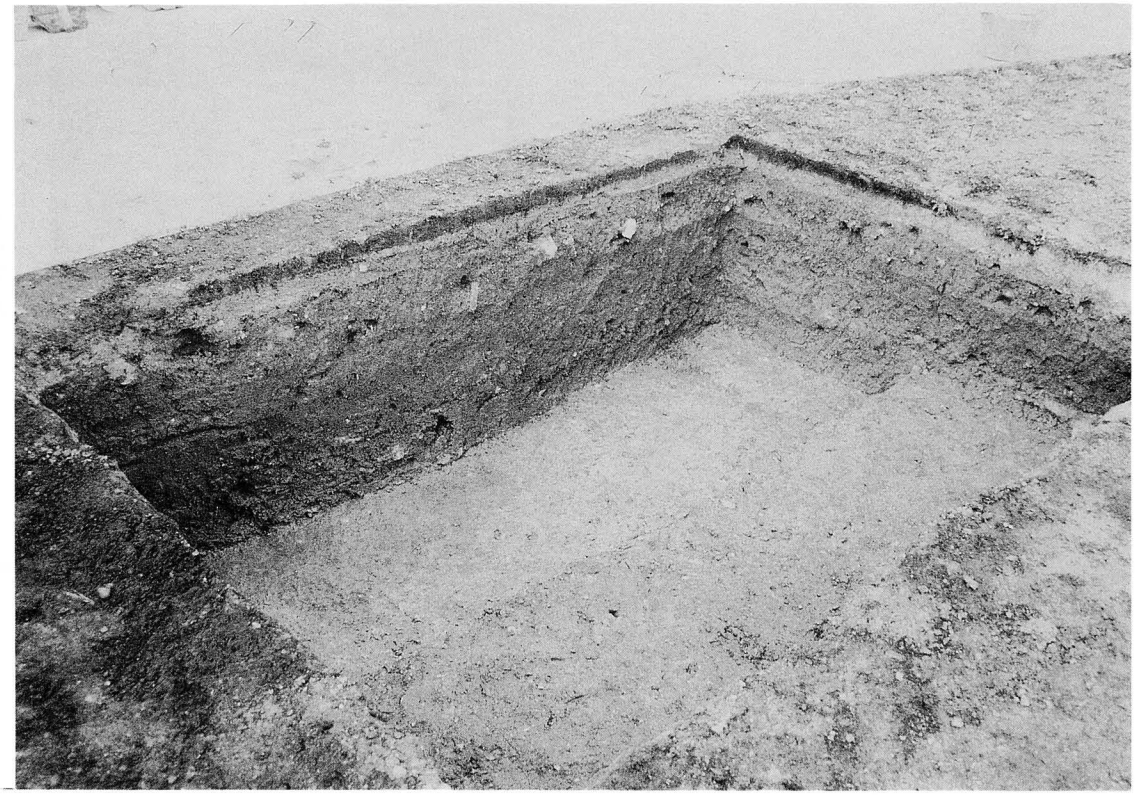


図－20　調査区位置図

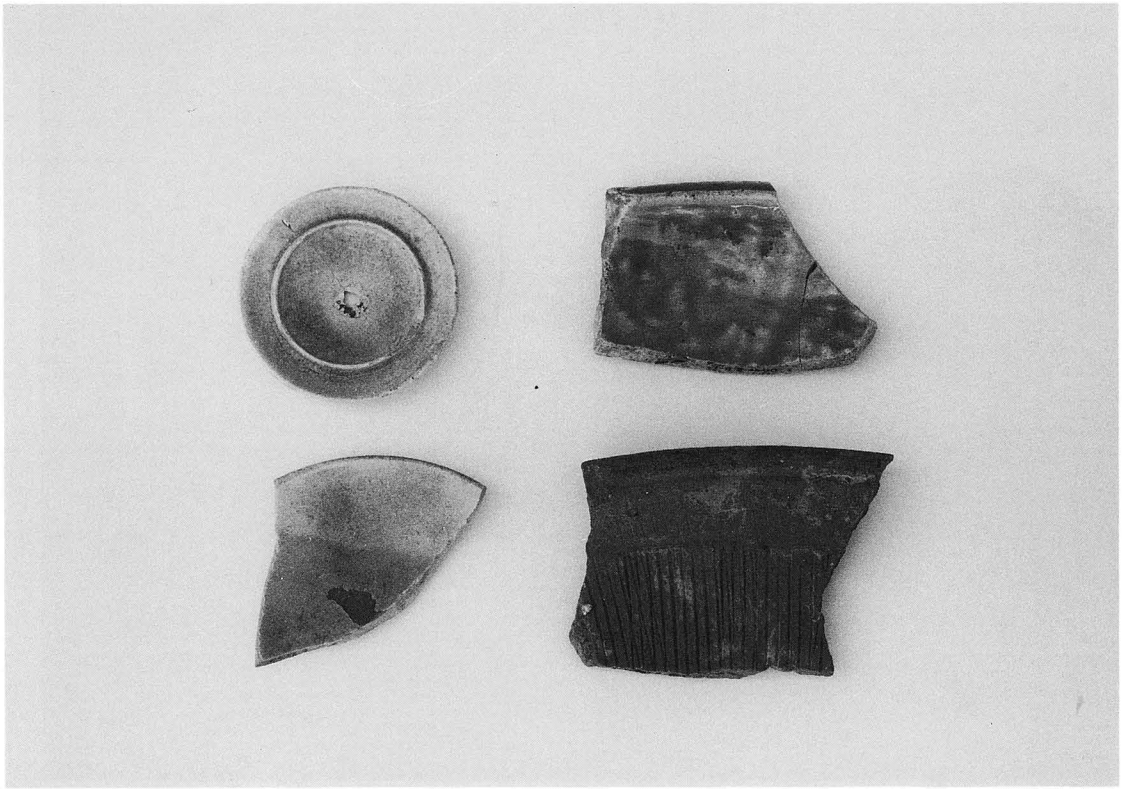


図－21　遺構平面図

図　　版



トレンチ全景



出土遺物

遺構検出状況

遺構掘削後

トレンチ（西から）

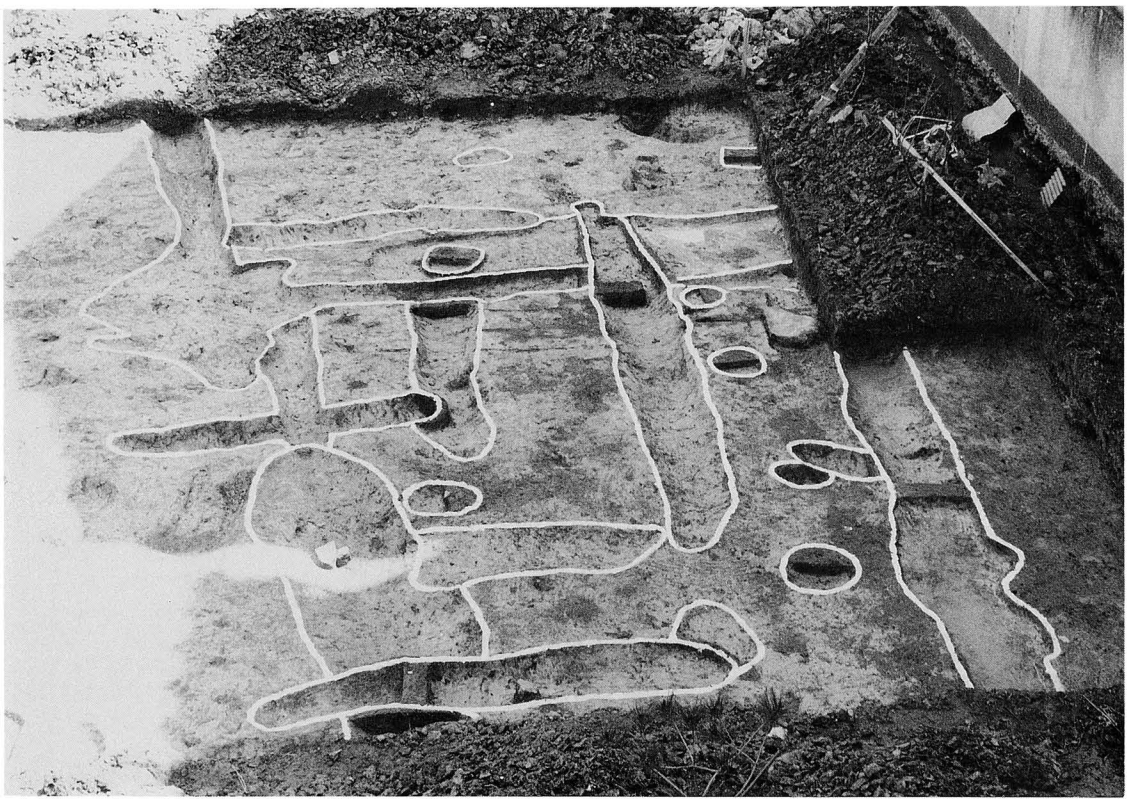
トレンチ（南から）

第1トレンチ

第2トレンチ

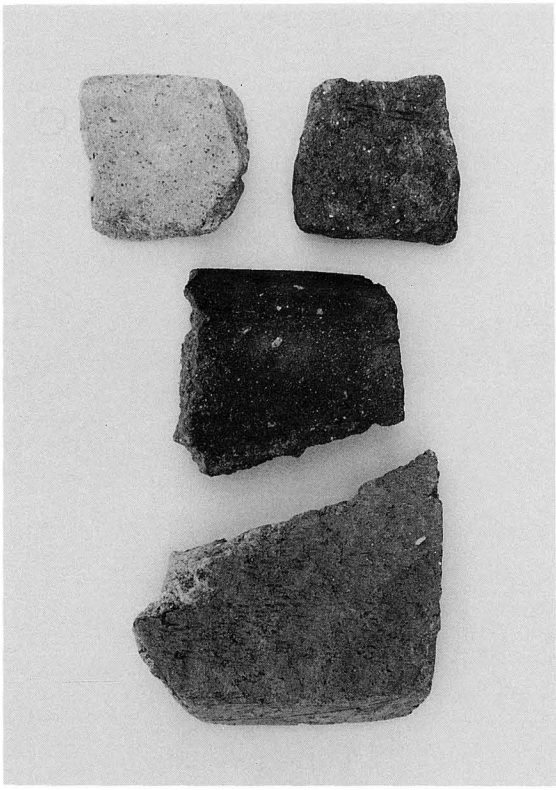
図版五　田辺遺跡（90－5）

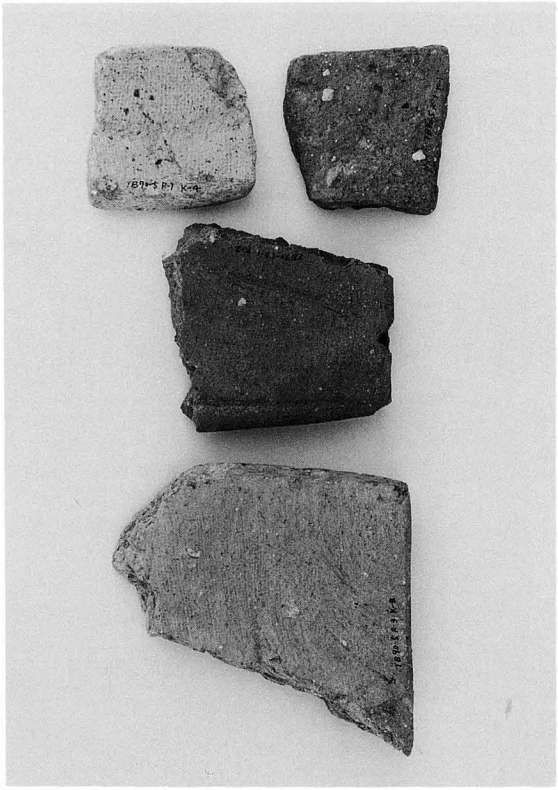
北側トレンチ



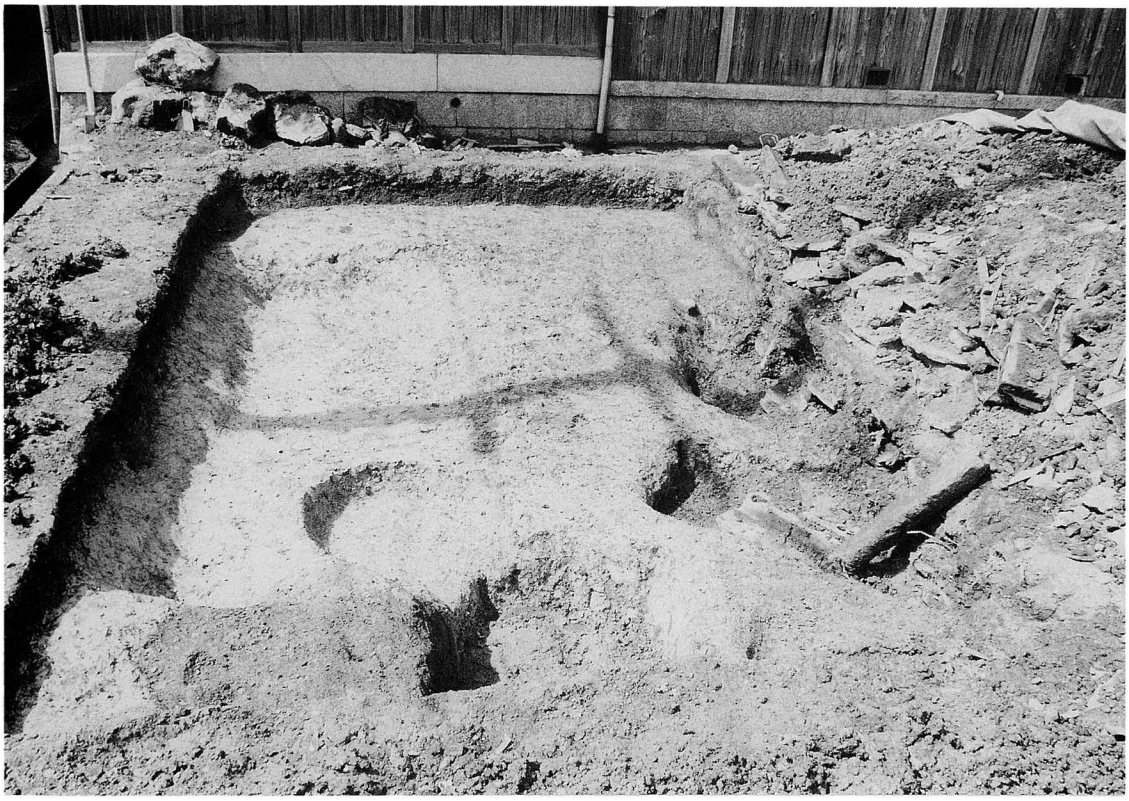
南側トレンチ

南側トレンチ





出土遺物



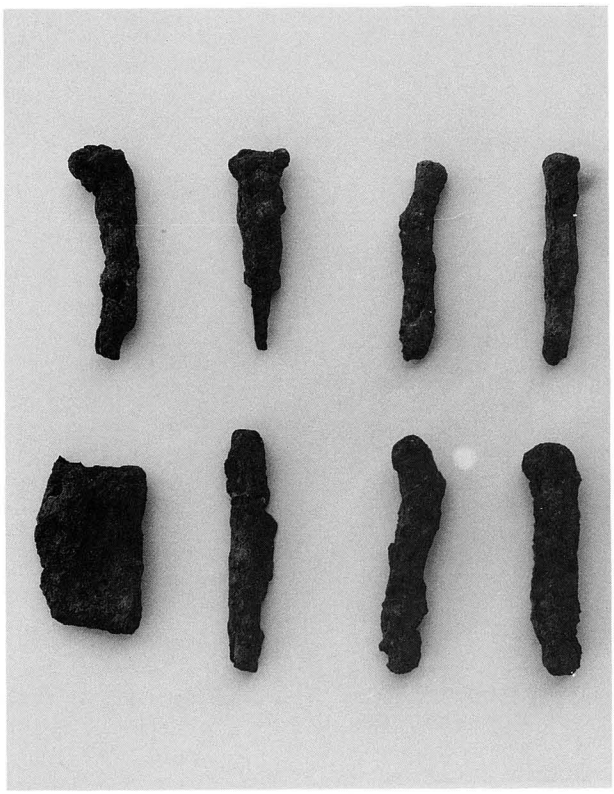
第1トレンチ

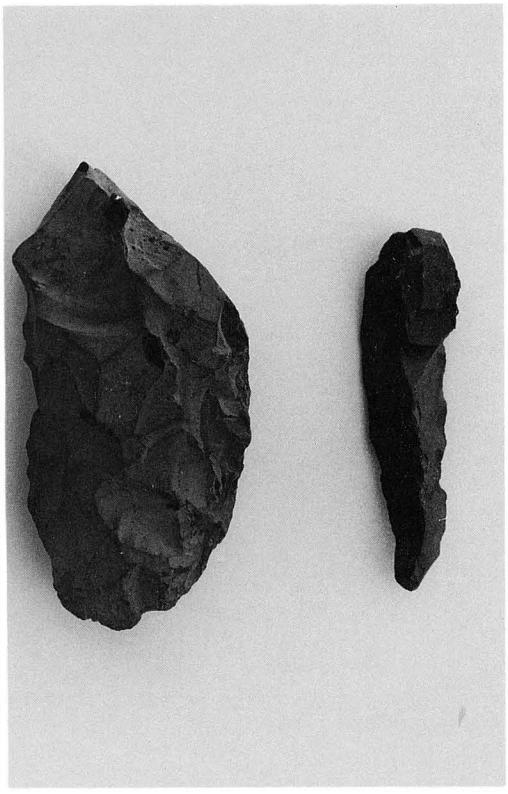
焼土坑1

第2トレンチ

土坑2

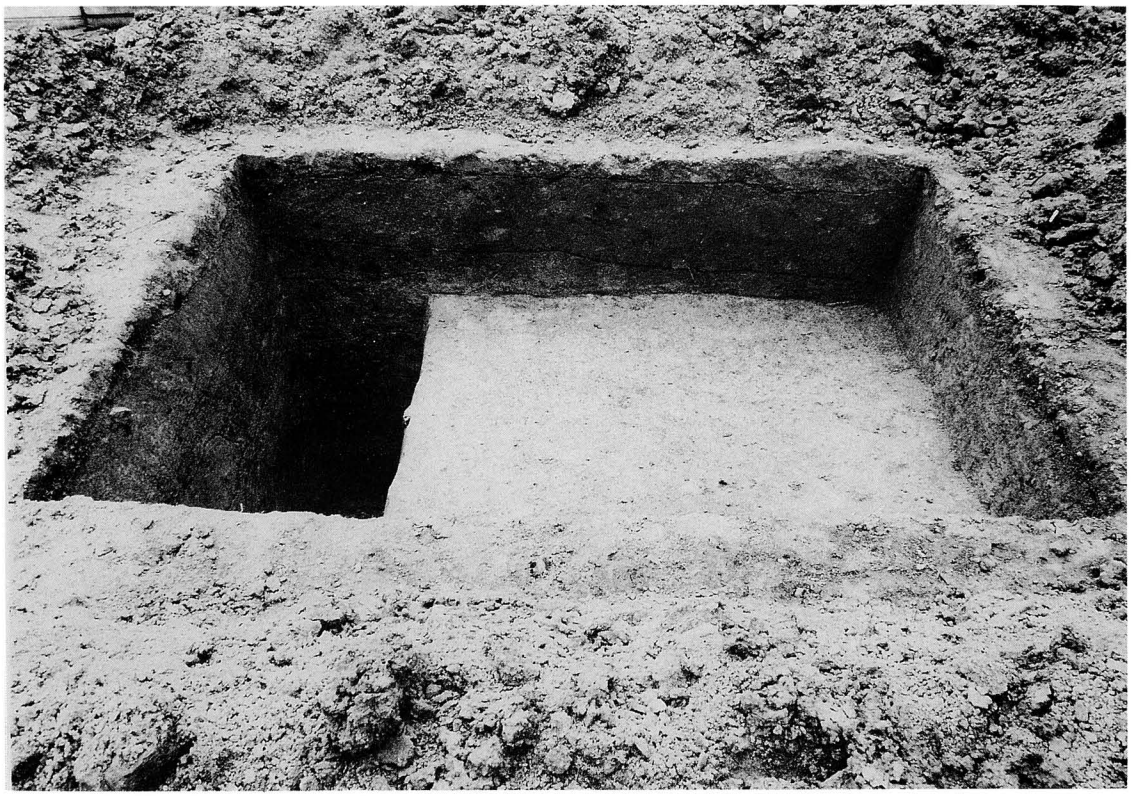
出土遺物



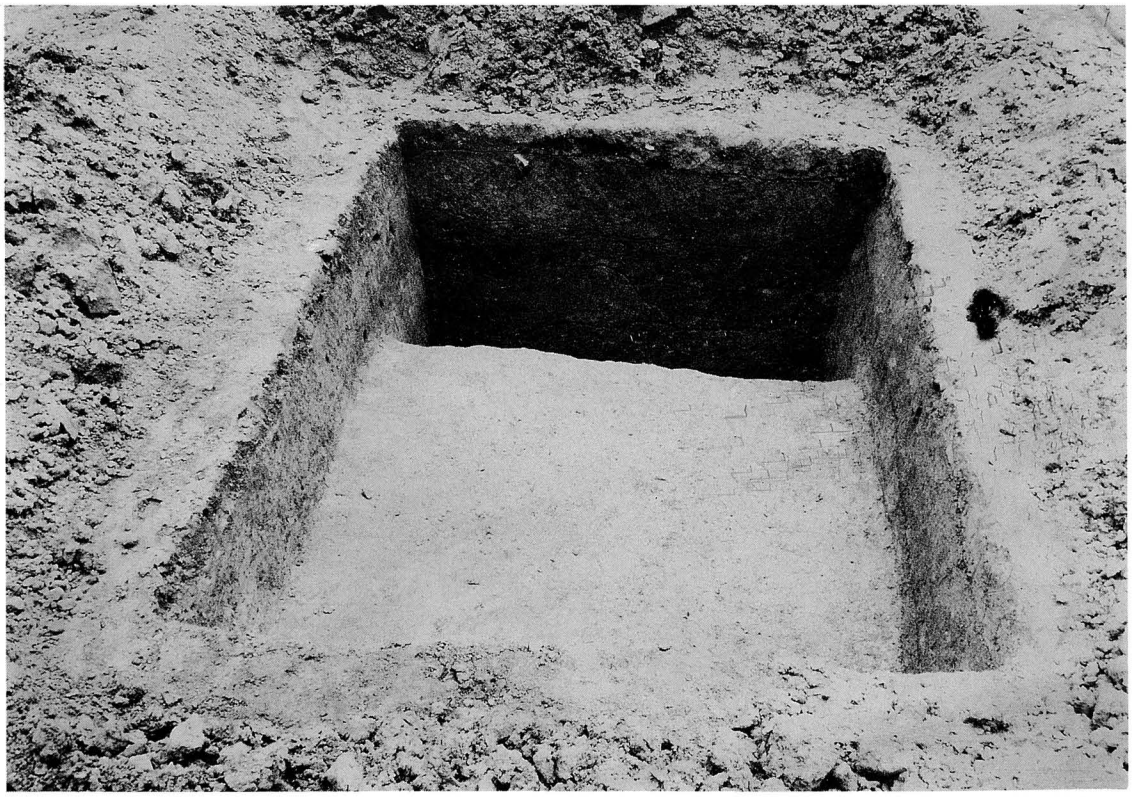


出土遺物

図版十　田辺遺跡（90－7）



トレンチ（東から）



トレンチ（北から）

遺構（北から）

遺構（南から）

トレンチ（南から）

トレンチ（東から）

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1990年度

編集・発行　柏原市教育委員会

〒582　大阪府柏原市安堂町１番43号

電話　（0729）72－1501内線5133

発行年月日　平成３年３月

印　　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所